

麦の郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2017

ソーシャルファームビネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎビース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



紀の川生活支援センター
「初詣」1.5(木)



くろしお作業所
「初詣」1.5(木)



はぐるま共同作業所
「初詣」1.4(水)

謹賀新年
おめでとうございます



くろしお作業所
「書初め」

私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



麦の郷40周年・新しい年を迎えて



社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 **田中 秀樹**

明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、多くのご支援をいただきました。本当にありがとうございます。これからも麦の郷ならびに困難をかかえる人たちの活動にご理解とご支援をいただけますようお願い申し上げます。

昨年4月から「感謝を胸に つむぎ、つないで、つたえよう」をテーマとして麦の郷40周年記念企画が続いています。実行委員会は各事業所から選出され、シンポジウム、冊子、映像、記念商品、余暇支援、職員研修に分かれ議論がすすめられ、また麦の郷地域リハビリテーション研究所からは「40年から50年へ」つなぐ本の出版も計画されています。

12月には「こころ、ひびきあうフェスティバル」が開催され、仲間たちの舞台発表や作品展示、歴史を語るスライドショー、仲間の声をつない

で作曲された歌が紹介され、また新商品も配られました。多彩な内容にあふれ日頃の仲間たちの活動の一端や仲間やスタッフのエネルギーに感動しました。この40周年企画は「平和」「人権」について深めるもので、年間を通じて全員参加の企画が3月まで続きます。

40周年とは1977年3月7日に6畳一間で出発した「たつこの共同作業所」からを指します。この間直面する課題によって事業や活動が生まれ新たな時を刻んでいます。それが今日の麦の郷を形づくっています。それには多くの方々の歩みとご協力があったからこそです。それは遅れている制度や制度がなく、困難に直面していること「ほっとけやん」「あかしい」と思う市民としての感覚をもち続けた行動の結果でもあります。ですから麦の郷はまだまだ困難な問題があれば、少しでも役に立てるように努力していきます。

昨年、私たちに衝撃を与えた相模原障害者殺傷事件での障害のある人や高齢者やホームレスの人たち、在日外国人に対して排除の風潮が強まっていることに危機感もちます。シリアの紛争地帯の難民の方や破壊された都市の映像を見ると心が痛み、「なぜ?」止められないのかと思います。

私たちは身の周りでおきている「あかしい」「なぜ?」のことに敏感でありたい、そして「誰のための麦の郷なのか?」と「誰のための…」を頭に置いて考える姿勢をもち続けたいと40周年を迎える今年、新たな決意としたいと思えます。今後とも麦の郷などの活動とともに歩んでいただけることを、心からお願い申し上げます。

麦の郷の年男・年女
今年の抱負



紀の川生活支援センター
藤本 綾子

5回目の年女、そして還暦を迎えます。還暦は「もう一度生まれた時に戻る」「第二の人生の始まり」という意味があるとか。この節目の年、これからの人生を考えたいと思いつつも、ゆっ



ソーシャルファームピネル
北端 好子

あけましておめでとうございます。

私は仕事が忙しいけど頑張っています。みんな仲良しでうれしいです。私はみんなが大好きです。みんなに手話を教えて、覚えてほしいと思います。私は仕事がしたいです。私は白衣のたみが上手だと思います。病衣のたみも上手です。たくさんたみの仕事があり忙しいけれど、一生懸命頑張っています。ソーシャルファームピネルは、みんな仕事が忙しいけど頑張っています。午前8時半から午後5時15分まで、月曜から土曜まで仕事を頑張っています。つかれませんが、私はピネルとなでしこホームが好きです。



ラ・テールの3羽トリオ
白川眞子
鳥平有紀 森亜紀

ラ・テールの年娘を、3人紹介いたします。白川眞子さん・鳥平有紀さん・森亜紀さんのバタバタ3羽トリオです。この3人にインタビューしてみました。

①自分を鳥にたとえたら ②どこでもドアがあったらどこに行きたい ③宝くじが当たったらどうする ④今年の目標・やってみたい事

白川眞子さん

- ①つばめ(速く飛びたいから)。()
- ②ゴールドンボンバーの全国ツアーを回りたい。
- ③クロムハーツのブランド品を買いたい。
- ④事務の仕事頑張りがら、調子のいい時には豆腐の仕事をしたい。

鳥平有紀さん

- ①にわとり(なんとなく)
- ②東京に行ってアイドルに会いたい。
- ③遊びまわりたい。



くろしお作業所分場
深野大地 池田智弥
池谷徳男 玉置葵頼

④パソコンでインターネットが出来る様になりたい。事務の仕事も頑張る。

- ①すずめ(ちゅんちゅん動き回っている)。()
- ②宇宙に行つて地球を見てみたい。
- ③自然いっぱいのある小さな家を建てて、絵とおいしいパンのあるお店をやってみたい。
- ④仕事も遊びも、見て・聞いて・体験して、たくさんの人と出会える年にしたい。

深野大地さん 『フェス部のお仕事楽しいです。やさしい踊りの練習頑張ります。』
池田智弥さん 『フェス部の仕事頑張っています。学校時代から続けている家の手伝いも頑張っています。』
池谷徳男さん 『健康で仕事頑張ります。』
玉置葵頼さん 『お菓子の仕事頑張ります。』



ソーシャルファームピネル
島村 淳太郎

とり年だから、がんばって仕事したいです。タイガース、優勝してほしいです。

40周年記念

余暇支援部

つえすていばる2016

12月17日(土)和歌山市北コミュニティセンターにて、生活支援部と40周年記念余暇支援部合同で、こころ・ひびきあうフェスティバル2016を開催することが出来ました。

沢山の仲間が作品展示や法人を越えての発表会ができて、皆さんのキラキラ輝いた姿を見ることができました。

余暇支援部でも「麦の郷ふあーていーず」と言う音楽隊を結成し、皆さんの前で歌を初披露する事ができました。沢山の仲間が舞台上上がって一緒に歌えたことが、本当に嬉しかったです。

私たちが皆で作った歌は、仲間の皆さんから歌詞や言葉を応募してもらったり、事業所に行かせて頂き、貴重なお話を聞かせてもらって出来た歌です。仲間の皆さんの大切な思いを歌詞に乗せ、2曲大切な歌ができた事、沢山の人が聞いて頂く事ができた事、余暇支援部みんなの喜びになりました。

来月CD販売できると思っていますので、皆さんに覚えて頂きみんなの歌になれば嬉しく思います。(吉E)



テーマソング

あ・り・が・と・う

僕が歩いた道 君が歩いた道 どんな足跡かな？
涙で水たまりができていたり
踏ん張りすぎて穴ぼこだらけ
色んな形があつて いまの僕らには… 愛おしい
あなたに逢って ほんとに良かったな
いま僕がここにいること… 感謝して
あなたに逢って ほんとに良かったな
心から伝えよう あ・り・が・と・う (Oh)

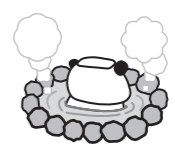
あ・り・が・と・う (Oh)
僕が歩くこの道 君が歩くこの道
どんな足跡かな？
雨がザーザー降っても 崩れなかったり
カラカラの道でひび割れてたり
どんな形があつて いまの僕らには… 怖くない
あなたに逢って ほんとに良かったな
いま素直でいられること… 感謝して
あなたに逢って ほんとに良かったな
心から伝えよう あ・り・が・と・う (Oh)

あ・り・が・と・う (Oh)
色んな形があつて いまの僕らには… 眩しくて
あなたに逢って ほんとに良かったな
いま目標(ゆめ)を持ってたこと… 感謝して
あなたに逢って ほんとに良かったな
いま僕がここにいること… 感謝して
あなたに逢って ほんとに良かったな
いま素直でいられること… 感謝して

ねがいとキミとボクの歌

もしも ねがいが叶うなら
自分の足で歩いてみたい
どんな感じなんだろう？
どんな気持ちなんだろう？
はじめて触れる あたたかな心
あなたの支えと共にボクは生きる
もしも ねがいが叶うなら
あなたの声をきいてみたい
きくと やさしいだろうな 子守唄や笑い声
ありがとう君がここで逢えた奇跡
こんなにも青い空に気づけたんだ

初めて触れる あたたかなココロ
あなたの支えと共に ボクは…
ありがとう君がここで逢えた奇跡
こんなにも青い空に気づけたんだ
これからも ずっと… いつまでも
手と手を取り合いながら 歩いて行く…
これからも ずっと… いつまでも
果てなくつづく人生を 歩いて行く…
ラララ… ラララ… ラララ… ラララ…
これからも ずっと… ずっと…



スライドショー

映像作成部

できあがりしました

麦の郷40周年記念実行委員会発足にあたり映像作成部として昨年12月に1回目の打合せがスタートしました。事業所紹介も含めてメンバーに焦点をあてた映像を作成するという事をコンセプトに、どんなものに仕上げるのか全く想像もつかないまま協力して頂ける方への声掛けから始まりました。

まずは、ひとつ目の作品として、平成28年12月17日には、同じ40周年を記念した余暇支援部&生活支援部主催の「こころ、ひびきあうフェスティバル」で、余暇支援部で作成した曲にのせ「スライドショー」を、また平成29年1月21日には、2つ目の作品である麦の郷を紹介できるようにクイズ形式の「麦の郷れきし発見」を発表させていただきました。

両作品とも40周年の「感謝を胸に つむぎ、つないで、つたえよう」のテーマに沿えるようなものに仕上がっていると思います。

また、提供していただいたデータは歩みの一部として50周年に繋げていけるよう保管させていただきます。

今後、作成した2つの映像をたくさんの方々に見ていただければ、幸いです。ぜひ、ご活用ください。



(京G)

「沖縄視察研修」に行ってきました

職員研修部

麦の郷は、2017年3月で40周年を迎えます。今年度は、その記念企画として、研修や文化祭、シンポジウムなど、様々な企画が行われています。

11月に、視察研修として沖縄へ行ってきました。「平和と人権」を学ぶことを目的として、今回の研修は計画されました。1日目は現地の作業所の見学、2日目はハンセン病療養所での講話と見学など、3日目にひめゆり平和祈念資料館と沖縄県平和祈念資料館の見学と、3日間いろいろな見学させていただきました。



沖縄に行って最初に驚いたことは、戦闘機などの轟音でした。それが「日常で、あたりまえ」という話も聞き、沖縄の方は大変な思いを今でもしているのだと改めて感じました。

いろいろな見学をさせてもらった中で、特に、ひめゆり平和祈念資料館の見学は心に突き刺さるものがありました。当時15歳くらいの女学生が戦場に動員されていたという事を知り、とても大きな方が亡くなったという事を知り、どれもが衝撃的なことでした。本当なら15歳という夢多き世代、それが「戦争」で彼女たちの夢だけなく、命までも奪われてしまったということが、悲しきや切なさなど、言葉では言い表せない気持ちになりました。終戦から71年、今ではほとんどの

回転焼きとクリームが完成!

商品開発部

商品開発部では、40周年記念にちなんだ記念口「や商品の開発を行いました。

夏祭りには「コーヒー生地のパンにアイスクリームをサンドした「カフェオレアイスパン」を販売し、そして冬に向けては回転焼きの試作を重ねています。回転焼きの餡をどうするか…和歌山の特色あるものをと様々な種類の餡を試作・試食をしながら、苺餡と色川町の挽茶餡を作ることにしました。さっそく先日12月17日に行われた、『こころひびきあうフェスティバル2016』にて記念品として苺餡の回転焼きを皆さんにお配りしました。

「O」マークは麦の郷の事業所の皆さんに募集し、その中から選ばれた麦ピースの池宮さんのデザインを基に「O」が完成しました。それをシールにして回転焼きのパッケージに貼り、1月21日に行われる40周年企画『感謝を胸につむぎつないでつたえよう』と題したシンポジウムでもお越しになった方にお届けする予定になっています。



きょうされん第39回全国大会

inくまもと

きょうされん第39回全国大会inくまもとに参加してきました。大会が始まる前に熊本城を見学しました。4月に発生した地震の影響で大きな石垣がまだ崩れ落ちたままの状態でした。地震の大きさを目の当たりにし、自然の力には敵わないと感じながら、午後から開催される大会に参加させて頂きました。

オープニングセレモニー・基調報告、そしてステージ企画では「あたりまえに働き、えらべるくらしを」についてのお話をお聞きしました。

分科会では、水俣病資料館語り部の会会長の緒方正美さんのお話を聞かせて頂きました。

水俣病はチツソと言う会社の排水が原因で発病した病気ですが、当初は原因が分からず、つづるのではないかと、奇病だとまわりのひとから差別を受けてきました。そのうえ魚を食べるといけないと言う事が分かると、魚が売れなくなり漁業で生計を立てていた患者さんや家族の方は、大変苦しい生活をしなければならなくなったそうです。緒方さんも、水俣病の患者さんのお一人です。自分が幸せになる為に、38年間事実を隠して来たそうです。被害者なのに、事実を話すとか害者になつてしまつ、人権を無視された生活を送らなければいけない。本当に言葉には表現できない思いが伝わってきました。しかし、恨んでも何も解決しない、差別を無くすには、水俣病になった時からの幸せを伝えなければいけない、失う一方得るものもある。幸せという事に気づく大切さを忘れ

てはいけない。その為には、問題に真正面から向き合う事、人の話を傾ける事の大切さを教えて頂きました。そして、人は生まれた時から幸せになる権利があるのだと。

緒方さんの教えて下さった事は、福祉の現場でも同じことが言えると思います。何に耳を傾けなければいけないのか、何を大切にしていかなければいけないのか、常に心の中に持っていなければいけないと思えました。みな様も一度、水俣病資料館に足を運んで語り部の方のお話を、お聞き頂けたらと思います。

(森あ)



参加したなかまにインタビュー

Q 今回、きょうされん大会inくまもとへ行ったきっかけは？

A 僕の生まれ故郷が熊本なのですが、4月に熊本の震災があり、まさか自分の生まれ故郷が震災にあつたとは思っていません。シヨックを受けました。シヨックから元気がなくなつて

…そこに今年のきょうされん大会が熊本で開催されるので一緒にいってみようか？と声をかけてもらいました。そして、熊本の現状を知りたいと思い、行ってきました。

Q 実際熊本へ行つてどうでしたか？

A 福岡から、熊本に近づいてくると、ビルビルのシートの屋根があつたり、ビルの骨組みが見えたりと…また、きょうされん大会2日目には、他の作業所のなかまやボランティアの人

達と熊本城にも行ってきましたが、お城の石垣が落ちていて、建物が浮いている様子も目の当たりにしました。地元の人もしヨックを受けている人もたくさんいると思いますが、元気に暮らしている人達の姿も見ることができ、少し安心しました。早く復興して、元の街に戻ってほしいです。

Q きょうされん大会については…？

A なかまの分科会で、「あなたの夢やねがいをおしえて！」に参加しました。たくさんのかまたちと一緒に、なかま自身叶った夢について話をしました。

Q 宮本さんは、叶った夢を発表したんですか？

A 司会がつれもとの鈴木さんだったので、発言するよう合図を送られたけど、恥ずかしくて言えませんでした…。

Q じゃあ、今ここで、改めて自分の叶った夢を教えてください。

A 第2の故郷の和歌山で、スポーツ大会で全国一位になれたこと。そして、和歌山市と和歌山県から表彰を受けたことです。

Q 最後に次に叶えたい夢を教えてください。

A また熊本へ行つて、その復興した姿をみたいです。できれば、熊本で、全国障害者スポーツ大会を行つてもらいたい、そこへ選手として行きたいです！

くろしお作業所 宮本高志さん

第16弾『障害者週間 広がれネットワーク』

～フィンランドの風を感じて～



「障害者週間 広がれネットワーク」は那賀圏域の障害者福祉施設・家族・当事者・地域の人たちが集まり「障害のある人が、地域でこころゆたかな生活ができる社会を実現するため」に、様々なイベントに取り組み今年で16回目を迎えます。5月から実行委員が集まり、今年度のテーマは「さかそうえがおの花」と決まりました。

それから、半年以上かけて、「広がれフェスティバル あなたも私もアーティスト」や「お母さんのためのほっこりタイム」障害のある子どもを育てる親の交流会」等を企画準備してきました。

講演会は「フィンランドの風を感じて」と題し、内閣府青年国際交流事業 平成28年度 地域課題対応人材育成事業「地域コリアーグループプログラム」障害者関連活動」に派遣された窪原より、フィンランド報告をさせていただきました。フィンランドは、国連障害者権利条約が今年5月に批准され「人権を大切に」という方向性と、当事者が提言活動をおこなつ仕組みづくりが出来ている国です。フィンランドで学んだことをもとに、「当事者の意思決定支援」や「多くの人とネットワークをつくること」の必要性」を報告させていた

川永小学校との交流会

くろしお作業所

今年の「障害者週間 広がれネットワーク」は、手話サークル、子ども保育の看護師や保育士等たくさんボランティアや実行委員に支えられて「えがおの花」が咲きほこりました。この「えがおの花」の輪が、より広がりますように。来年度のイベントもご期待ください！

(窪原)

西和佐小学校の子ども達と交流

子ども達と交流

11月1日(火)、今年も西和佐小学校6年生の子ども達が、麦の郷を見学に来てくれました。麦の郷へは夏祭り以来来たことがあるが、実際何をしているかはあまり知らなかった子ども達が多く、クリーニング工場やパン工場に関心深く見てくれていました。

そして、重度身体障害者であり画家の宮崎幸子さんが、体験談などを話してくれました。

とても心に響く内容で、子ども達も真剣に聞きっていました。また、子ども達からたくさん質問もあり、とても和やかな雰囲気でした。宮崎さんは、「辛いことがあつても、みんな夢をもつて生きていってね。」と励ましてくれます。それは、自分の体験から出る魂の言葉で、とても感銘を受けます。子ども達には、その言葉が深く刻まれていると思います…。

(山本)



毎年、交流後にも遊びに来てくれる生徒さんや、道で会った時にも声をかけてくれる生徒さん、昔この交流会に参加し

